

青い波北陽台

令和3年12月24日 発行
長崎県立長崎北陽台高等学校
西彼杵郡長与町高田郷3672
TEL 095-883-6844
FAX 095-883-0776
発行責任者 山口千樹

「為せば成る」ためには

教頭 川原 智司

「為せば成る 為さねば成らぬ 何事も 成らぬは人の 為さぬなりけり」

広く知られる上記の言葉は、18世紀後半に17歳で出羽国米沢藩の第9代藩主となり、およそ半世紀にわたり藩政改革に取り組んだ上杉治憲（はるのり 隠居後「鷹山」ようざん）と号す）が、家臣団に教訓として詠み与えた歌であると伝えられています。数年前にある企業が全国各地の経営者や事業主に対して「座右の銘」を一つ自由に記入する形で回答を求めたところ、この言葉が最も多く寄せられたとされています。



米沢城跡に建立された上杉鷹山公之像

また、ケネディ元 アメリカ合衆国大統領は、1961（昭和36）年の大統領就任時に日本人の記者団から「日本で最も尊敬する人は誰か。」と質問されたのに対し、「それは、上杉鷹山である。」と即座に答えたこと、政治家としての理想像を治憲に求めたことが語り継がれています。

治憲が家督を継いで藩主となった時、米沢藩は財政難や人口減少等により藩政は破綻寸前にあり、前藩主の時代には藩領を幕府へ返上して領民救済を委ねることが検討されたと伝えられています。このような状況の中で、治憲は、「藩建て直し」に向け、平常の食事を一汁一菜とする等の大儉約の実施、荒廃地の開墾・開発、換金作物の植栽奨励並びに養蚕・織物生産等の産業振興及び藩校「興譲館」の復校等による人材育成を推し進めるとともに、18世紀末に発生した天明の大飢饉の際には東北地方において多くの餓死者が出る中でこれを一人も出さず、今日の米沢の礎を築き上げたと言われています。私は、コロナ禍に伴う緊急事態宣言が解除されて間もない本年10月上旬に、本県の教頭会の用務に伴い、「興譲館」の系譜を引き継ぐ山形県立米沢興譲館高等学校を訪問する機会を得ました。同校の先生方と懇談を行っていく中で、「持続可能な社会」を構築しようと精励した治憲の事蹟や姿勢は、地元の人々に広く共有されていることがうかがえました。

ところで、文頭の治憲の歌は、戦国期の武将武田信玄がのこした「為せば成る、為さねば成らぬ成る業を、成らぬと捨つる人の 儂さ」（「強い意志を持って取り組めば必ず実現できる。一方、取り組まなければ何事も実現できない。努力すればできることであっても、最初から無理だと諦めてしまうところに、人の弱さがある。」という趣旨）という言葉を模範にしたものとされています。治憲の歌には、信玄が生きた時代とは異なる社会状況を踏まえ、人としての在るべき姿が説かれているように感じられます。

令和3年は残り僅かとなり、間もなく新しい年を迎えようとしています。「一年の計は元旦にあり。」とも言われます。3年生は、毎日を有意義に過ごしながら、3年間の集大成を行っていることと察します。1・2年生についても、高校生活は未来に向けて進んでいます。上杉治憲は、250年程前、現在の本校生徒に相当する世代で、藩政を担い始めています。成し遂げたい物事に対し、「成らぬと捨つる」のではなく、目標や取り組むべき方向を見据えた上で、それに向かって強い決意を持って着実に努力を積み重ねていくことを期待します。

理数科1・2年 ～理数科研修旅行～

理数科1・2年72名は、12月1日(水)～3日(金)にかけて、茨城県つくば市及び土浦市の研究所（産総研等）、東京都内の国立科学博物館や国立科学未来館で様々な研修を行いました。最先端の研究についての講義・実験の受講、研究施設等の見学を通して“本物の科学技術や研究”の魅力を実験しました。また、本校2回生の方から社会人として大切なことや、学生時代にやっておくべきことを講話していただき、自分の進路等について深く考える、実りある研修旅行となりました。



<左上の写真>
物質・材料研究機構（1年）

<右上の写真>
OBによる講演（2年）

<左下の写真>
産業技術総合研究所（1年）

<右下の写真>
つくば宇宙センター（2年）

2年 ～山陰・瀬戸内方面への修学旅行、SDGsバーチャルキャンプ～

2年生272名は、12月13日（月）～12月16日（木）にかけて、山陰・瀬戸内方面への修学旅行に行きました。山陰地方では、出雲大社、足立美術館や鳥取砂丘などを見学しました。さらに、理数科の生徒10名は同じ理数科のある鳥取東高等学校を訪問し、学校交流を行いました。また、瀬戸内地方では、岡山市内または高松市内、倉敷美観地区で班別自主研修を行いました。生徒にとって、とても学びの多い修学旅行となりました。

12月17日（金）には、学校で修学旅行の振り返りやSDGsバーチャルキャンプを行いました。フィリピン、タイ、カンボジア、シンガポールなどの国の現地の人々とオンラインで交流を行い、おもに英語を使って質問などをしました。海外の人々とオンラインでのコミュニケーションを楽しんでいるようでした。



<左上の写真>
出雲大社にて

<右上の写真>
鳥取砂丘にて

<左下の写真>
鳥取東高等学校訪問

<右下の写真>
倉敷美観地区での班別自主研修

健脚くらべ ～琴の尾岳を目指して～

12月8日(水)、今年も本校の伝統行事「健脚くらべ」が行われました。日頃の体育の8分間走等で鍛えた持久力を発揮し、1・2年生546人が琴の尾岳を折り返す厳しいコースを走破しました。体力的にきつくなる、最後のチェックポイントである緑ヶ丘団地公園では、班のメンバーで励ましあい、最後までがんばろうとする姿が見られ、クラスの絆も深まったことと思います。大きな怪我等もなく、無事生徒も完走した達成感に浸りながら、PTAの方の差し入れの時津まんじゅうやお茶のペットボトルをいただきました。

各班、クラスの表彰は以下の通りとなりました。

<総合>	1位:2年5組	2位:2年4組	3位:2年1組	
<男子>	1年 1位:1組1班	2位:6組1班	3位:2組1班	3位:4組1班
	2年 1位:5組1班	2位:1組1班	3位:2組1班	3位:5組2班
<女子>	1年 1位:2組1班	2位:6組1班	2位:1組1班	
	2年 1位:5組1班	2位:1組1班	2位:3組1班	



琴の尾岳を目指して

琴の尾岳CP

ゴールを目指して

学校到着

4年連続20回目 花園出場決定! ～いざ花園へ!～

第101回全国高等学校ラグビーフットボール大会に本校ラグビー部が4年連続20回目の出場を決めました。先日行われた抽選の結果、12月30日の2回戦で関商工(岐阜)と日川(山梨)の勝者と対戦することが決まりました。出場に際しまして多くの方からの物心両面からの激励等をいただき、ありがとうございました。今年度もコロナウイルス感染の影響により、例年のように初戦から花園での希望者による応援はかきませんが、今年も昨年に引き続き、全国大会で青い旋風を起こしてくれるものだと信じています。

ぜひ、長崎北陽台ラグビー部の応援をよろしくお願いします。

1月の主な月間行事予定

4日(火)、5日(水) プレテスト(3年)	14日(金) 3年生④まで、放課後会場下見
6日(木)、7日(金) 冬季自学(3年)	15日(土)・16日(日) 大学入学共通テスト(3年)
9日(土) 土曜自学(全学年)	15日(土) 校外実力試験(1・2年)
10日(月) 成人の日	16日(日) 校外実力試験(2年)
11日(火) 始業式・校内実力試験(1・2年)	18日(火) 特別編成授業開始
12日(水) 校内実力試験(2年)	23日(日) 3年面談開始
12日(水) 百人一首大会(1年、午後)	29日(土) 土曜自学(1年)・ハイレベル模試(2年)
13日(木) 凧あげ大会(2年、午後)	

各学年から～主任の熱いメッセージ～

【1学年】

「2学期終了」

1学年主任 林 圭介

2学期が終了しましたが、これから3日間の冬季自学と13日間の冬季休業があります。ここで復習と演習に励んで、3学期につなげていってほしいと思います。まあまあ長さのある冬季休業ですので、課題にも計画的に取り組み、休みの終わりの方でまとめて片づけるようなことは避けてください。力がつくようにやっていきましょう。

年が明けると、1/11の校内実力テスト、1/15の校外実力テストが予定されています。今までの授業内容の定着度合いを確認するよい機会だと思われます。少しずつですが、学習した内容も多くなり、ひととおり復習をするだけでも大変になってきていると思われます。学習に当てる時間を確保できるように生活リズムなどを工夫してみてください。

三者面談期間中から、小論文指導が始まりました。やってみた感想はどうでしょうか。この後は、冬季自学中に実施する予定です。大学入試における小論文や、志望理由書の作成などに対応できるように、真剣に取り組んでもらいたいと思います。

【2学年】

「修学旅行を終えて」

2学年主任 下村 かおり

一部雨もありましたが、中二日は快晴で空気が澄み渡り、山陰地方の美しい景色を堪能できました。山陰で冬に天気の良いのは珍しいらしく、バスガイドさんの「まさに奇跡です!」という言葉が印象的でした。中国地方最高峰の大山は、日の光を浴びて雪がキラキラと光る美しい姿を現し、また海の向こうに隠岐の島をうっすらと確認することもできました。岡山や高松での班別自主研修では、観光地を訪れたり、食べ歩きをしたり、買い物をしたりして楽しんでいただようです。新幹線の乗降でも、事前の練習の成果を生かすことができました。

帰崎した翌日は、SDGsバーチャルキャンプでした。シンガポールやフィリピン、カンボジア、タイといった国々の人々とオンラインで交流するこのプログラムは九州では初の試みで、貴重な体験となりました。

今回は、国内、それから海外へと目を向ける良い契機になったのではないのでしょうか。目先のことだけでなく、幅広くアンテナを張っておくことで見えてくるものがあるのだということを実感できた3日5日であってほしいと思います。

【3学年】

「1回目のスパート」

3学年主任 守 慶直

共通テストまで残された日数は、この「青い波」が配付される時点で残り約3週間、年が明けると残り2週間です。受験日が刻一刻と近づいています。決して3年生の皆さんを焦らせるつもりはなく、年末年始の過ごし方を考えてほしいと思っています。この数か月よく頑張ってきました。これまでの頑張りを無駄にしないためにも、力を振り絞って1回目のスパートをかけ、残りの日々、努力を続けてください。

共通テストが終われば受験校決定、二次試験に向けての学習開始と、息をつく間もありませんが、自分の進路を決めるための大事な数か月間です。時間の管理、体調管理を心掛け、できる限りの準備を精一杯行い、全てを出し切ってほしいと願っています。